

**TOMIX**

「オレンジ」、「ウグイス色」に続き、「スカイブルー」の  
JR西日本 201系 30N更新車をラインナップ。

N GAUGE



- 常点灯基板によるヘッド・テールライト、前面表示(運行番号・行先)の点灯には、ヘッドライトが電球色LEDを、テールライトが赤色LEDを、前面表示が白色LEDを使用しています。この前面表示は「13A/西明石」を装着済みとし、各種の運行番号、行先を揃えた交換用パーツを付属しています(\*1-2)。また、運転台屋根上の列車無線アンテナと信号炎管は、別バーツを取り付け済みとされています。

- 先頭車前面スクートは、既発売の『JR西日本30N更新車・ウグイス』と異なり、更新後間もない頃のタイプを新規に製作、装着しています。また、その交換用として2005(平成17)年頃から交換が始まった強化型(斜めの欠き取り部分が無いタイプ)も新たに製作の上、付属しています。なお、両先頭車運転台側のカブラーはダミータイプを取り付け、カブラー横の3本の空気配管を再現、クハ201形のジャンパ納めとジャンパホースは一体となった別バーツを付属しています。

(\*1) 運行番号表示 「02A」「04A」「07A」「09A」「10A」「14A」「17A」「18A」「21A」「27A」「29A」「34A」

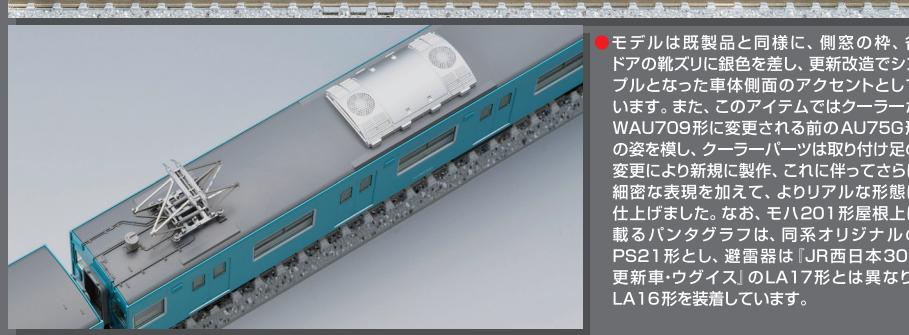
(\*2) 行先表示 「京都」「高槻」「甲子園口」「尼崎」「須磨」「神戸方面 大久保」「神戸方面 加古川」「京都方面 草津」「京都方面 堅田」「堅田」「湖西線 堅田」「JR宝塚線 尼崎経由 新三田」



旧来からの抵抗制御方式ながらも、大きく近代化された国鉄新性能電車として、1950年代後半に開発された101系(登場時モハ90形)と、同系の後を継ぎ1960年代初頭に登場した103系は、多数が製造されて国鉄通勤形電車の代表形式になりました。1970年代に入るとこれらを置き換えるべく、抵抗制御方式に代わりチョッパ制御方式を採用した新形式車両が計画され、国鉄初の「省エネ電車」となる201系が、1979(昭和54)年に誕生します。同系は試作車による中央(快速)線での長期性能試験後に本格的な製造を開始、1981(昭和56)年より量産車が同線で走り始めました。続々と新製される同系は、中央(快速)線のみならず、中央・総武緩行にも導入され、101系や103系を置き換えてきました。さらに、201系は関西地区にも投入されて、1983(昭和58)年から京阪神緩行線などで運用を開始し、これらは2003(平成15)年から車齢の延長を目的に、「体質改善30N」と称したリニューアル工事が施工されています。

この201系をシリーズで展開するトミックスでは、「オレンジ」と「ウグイス色」に続き、他線へ転属して塗色が変わる以前に、東海道・山陽本線(京阪神緩行線)などで活躍した「スカイブルー」のJR西日本30N更新車を新たにラインナップいたします。このモデルでもモーター車にはM-13モーターを使用したフライホイール付き動力ユニットを搭載、その他の各車には新集電システムを採用し、全車に黒色車輪を使用しています。また、先頭車前面と側面のJRマークは印刷済みとし、転写シート(車体番号[4編成成分]、ATS標記[PS]、弱冷房表示、女性専用車表示)と、前面表示(運行番号・行先)バーツを付属します。

本製品のみによる運転だけでなく、先に発売の『221系近郊電車』や『223系近郊電車』などと併せて、京阪神間の並走もお楽しみください。



- モデルは既製品と同様に、側窓の枠、各ドアの靴ズリに銀色を差し、更新改造でシンプルとなった車体側面のアクセントとしています。また、このアイテムではクーラーがWAU709形に変更される前のAU75G形の姿を模し、クーラーパーツは取り付け足の変更により新規に製作、これに伴ってさらに細密な表現を加えて、よりリアルな形態に仕上げました。なお、モハ201形屋根上に載るパンタグラフは、同系オリジナルのPS21形とし、避雷器は『JR西日本30N更新車・ウグイス』のLA17形とは異なり、LA16形を装着しています。

# 201系

## JR西日本30N更新車・スカイブルー

JR 201系通勤電車  
(JR西日本30N更新車・スカイブルー) セット(7両)  
<98855> 予価¥28,270(税込)

JR西日本商品化許諾済 9月発売予定